

現在1万8000円前後である日経平均株価が史上最高値の3万8915円をつけたのは、1989年12月29日のことだった。一方日本のGDP(国内総生産)はこの20年間、名目ベースでほとんど横ばいで推移している。つまり、株価のほぼ4分の3と「経済成長の実感」が失われたのがこの20年であったといえよう。さて、今年は何年のG

眠れる資産の活用を

浪花おふくろ投信代表取締役 石津 史子



D^Pが中国に抜かれ、ほぼ40年ぶりに世界第2位の経済大国の座から降りると予想されている。高齢化が進む日本はますます勢いを弱め、今後は落

しかしそれは本当だろうか。景気は曲がりなりに回復に転じた。08年に激減した輸出が持ち直し、生産が急回復していることが背景にある。中でも

アジア向け輸出が好調だ。09年に中国は新車販売台数で米国を抜き、家電の世界でも、10年にはアジアが欧米と市場規模でほぼ並ぶと予想されている。アジアの経済発展は、日本に大きなプラスとなる。

は、ごく自然なことだ。アジアへの投資と成長を取り込める日本企業の選別、という視点が、私たちの資産形成には欠かせない。

1400兆円を越す日本の個人金融資産を指して、「世界最大の眠れる資産」と言う人もいる。その活用が、単に個人の資産形成にとどまらず、アジア経済、ひいては世界経済の発展にもつながる。と考えると、重苦し

いはずの2010年が、いきなり明るい年に思えてくる。

ちぶれていくだけといった気分が先に立つ。

また資産形成においても、今後はアジアへの関心が一層高まるだろう。戦後の日本の経済成長と株価のグラフを見れば、成長する経済に上昇する株価が見事に重なる。アジアの経済成長がアジア株の上昇につながるの